

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネット録画配信をしています。また、議員名の横の2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は1年間です)。

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。6月定例会では、17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。【インターネット録画配信もご覧ください】



狭山市駅周辺の子ども人口は増えている
三浦 和也 (創政会)

その他のテーマ

- ▶ 中長期的財政見通しの広報を
- ▶ 茶の花号通勤通学入曾コース
- ▶ 市道B第425号線について



◆人口統計から見る保育需要と待機児童対策

①狭山市全体では人口減少傾向だが、狭山市駅周辺の子どもの人口は増えている。どのように認識しているのか。

②「子ども・子育て支援事業計画」には「定員増を伴う認可保育所の新設は行わない」とあるが、最近の人口動向の変化などを踏まえて柔軟に対応することはあるのか。

福祉子ども部長 ①狭山市駅周辺を含む入間川地区の0歳から5歳までの就学前の将来推計人口でも、平成32年から微増に転じることが予測されている。

②子ども・子育て支援事業計画の中での待機児童対策は、既存施設の定員の見直し、幼稚園の認定こども園への移行促進、地域型保育事業の整

備を中心として保育の提供体制を確保し、認可保育所の新設は行わないこととしている。28年4月7日付の国の通知によると、待機児童解消に向けて積極的かつ早急に緊急的な対策を講じることが求められているので、狭山市でも待機児童の状況を踏まえて、必要により民間保育所の新設に柔軟に対応したいと考えている。

狭山市駅周辺の人口推移
(統計「狭山市の年齢別人口」より)

(1月1日時点)	平成18年	平成23年	平成28年
狭山市駅周辺※	16,042人	16,212人	16,320人
狭山市駅周辺の0~5歳(就学前)	711人	672人	731人
(参考)狭山市全体	160,296人	157,227人	153,738人

※狭山市駅周辺…
入間川1、2、3丁目、祇園、富士見1丁目の合計



狭山を支える青少年の育成
千葉 良秋 (創政会)

その他のテーマ

- ▶ 地域の教育力向上
- ▶ 小・中連携教育の推進
- ▶ 中学生学習支援事業



◆教育の基本的指針

子ども達が心豊かに成長し、優れた見識と旺盛な実践力を持ち、社会の一員として高齢社会を支えられるような人材育成の基本指針は、

教育長 次代を担う子ども達の将来を見据え、子ども達の実態と保護者や地域の願いを踏まえて教育理念を定める。具体的には第4次総合計

画を踏まえ、策定の最終段階にある第2次狭山市教育振興基本計画の中で教育理念を「夢をかなえ人をつくる狭山の教育」と定め、また、学校教育の基本方針として「生きる力を備え未来へはばたくさやまっ子の育成」を掲げている。

◆家庭の教育力向上に向けて

子どもは親の背中を見て育つと言われているが、家庭教育の重要性を踏まえ、家庭教育環境の構築支援をどのように行っているのか。

学校教育部長 家庭の教育力を高めるために、学校だより、園だよりなどによる親の意識の啓発、保護者会を通じた情報公開の場を提供、PTA主催の家庭教育学級で実践力の育成に取り組んでいる。




歩道の街路樹は安全性を第一に考えて設置を
金子 広和 (創造)

その他のテーマ

- ▶ 公の施設と公共施設のの違い
- ▶ 街路樹のある歩道の管理
- ▶ 元気プラザは全市民に開放を



◆街路樹のある歩道

植樹のある歩道は道幅が狭くなり危険な箇所があるが、地域住民から伐採要望が出された場合の対応と、伐採後の植樹ますなどの管理を自治会や商店街が望んだ場合の対応は、

都市建設部長 伐採要望の理由や背景などを十分に検討し、その後の維持管理方法も含めて、



狭山市駅西口の街路樹のない広々とした歩道

個々に対応していきたいと考えている。

◆元気プラザ

体育館や運動場、地区センター別室などが設置してある狭山元気プラザは「住民の福祉を増進する目的をもって住民の利用に供するための施設(公の施設)」に該当するのでは、

市長 公の施設の要件にある住民とは、住民全部を対象とするものでなくても、合理的に一定の範囲に限られた住民であってもよいとされている。これに関して、狭山元気プラザは、さやま市民大学をはじめとする事業を実施する場として設定したものであり、住民の利用に供することが主な目的ではないことから、公の施設ではなく事業機関として位置づけている。



狭山市の熊本地震への迅速な対応・支援
笹本 英輔 (創政会)

その他のテーマ

- ▶ 熊本地震への支援の経過は
- ▶ 被災地の課題から学ぶ今後の防災
- ▶ 狭山市の受援計画の策定を



◆支援と受援

①被災地支援を通じて学んだ、支援側の課題とは。

②災害受援計画の策定の必要性は。

③県内自治体で狭山市だけが被災地からの早期の支援要請に対応できた理由は。

市民部長 ①地域防災計画の被災地への支援は、災害時の相互応援協定を締結する市町などへの支援が主で、大規模災害への対応を定めていない。全国レベルでの支援の場合にも職員派遣や支援物資の搬送などが迅速に行えるよう、準備体制を整えることが不可欠と認識した。

②支援を受ける側も速やかに受け入れ態勢を整えられるよう、受援計画をまとめておくことが必要と認識しているが、狭山市では、災害受援計

画は地域防災計画の中に、災害時の応援受け入れ態勢を位置づけるにとどまっている。

③被災地での活動を希望する職員を募集すると、性別、職種や役職を問わず多くの職員からの希望があった。県の職員の派遣対応が厳しい状況下で、狭山市では防災意識の高い職員が数多くいたので速やかな対応ができたものである。



いっしょに誰かに支えよう！

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧にならない方には、FAXまたは郵送でお届けします。議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313